

第3回次期定山溪観光魅力アップ構想検討会議 議事録（案）

■開催概要

日 時：令和6年9月9日（月）14：00～16：00

場 所：旅籠屋 定山溪商店

参加者：高野委員、古川（雅）委員、古川（善）委員、濱野委員、中西委員、陰元委員
（岩佐委員、布村委員はWEB参加）

欠席者：金川委員

オブザーバー参加者（オンライン参加含む）：

環境省 田島管理官（代理）、国土交通省 酒井課長、北海道 遠藤課長、空知総合振興局
松本課長、石狩振興局 木内課長（代理）、定山溪出張所 太田所長、北海道大学 磯谷氏、
定山溪観光協会 長谷川事務局長

事務局：札幌市観光・MICE 推進部 北川、西田、藤田、岩渕
株式会社ドーコン 朝倉、折谷

1. 議事

（１） 本日の検討テーマについて

（２） 定山溪観光魅力アップ構想の基本方針（案）について

○定山溪エリアのゾーニング（案）について

- ・観光協会の中で過去に温泉街エリアや白糸エリアなどで部分的に分けたことはあったが、すべてのエリアを網羅してゾーニングしたことはなかった。
- ・いままでは国道沿いは一体的な扱いだった。
- ・「ウェルカムの設え」については、国道沿線にずっと続くような形の方がいいのではないか。
- ・そこの景観をいかに統一していくのか、といったところ。
- ・道路拡幅事業が終了し、通過車両のスピードが速くなったように感じる。スピードを落として足をとめたくなるような景観や植栽といった設えが必要。定山溪小学校まではウェルカムの設えとしてはどうか。
- ・豊平峡側からきたウェルカムの設えも必要ではないか？
- ・ドライバーの注意を引くような温泉らしさを訴求するようなものがあれば。
- ・通過しようと思っている人でも定山溪に興味を持ってもらえるようなゾーンとして、国道沿線を一体的なエリアとして位置づけるのはどうか。
- ・景観づくりとして花を植えたりすると管理も重要になってくる。沿道の商店街との連携も必要。
- ・沿道の住民にとって、植樹などは管理が難しいという意見があった。ただ、実際に国道ができると、殺風景な部分はある。
- ・桜並木などがあれば面白い。
- ・シーニックバイウェイで花植えなどのノウハウがあるので、それを参考にしてもいい。
- ・石山通のイチヨウ並木は落葉の管理などもあり沿線住民にとっては評判が悪い。
- ・当初木を植えたいという話もあったが、落葉の問題や冬期の管理の問題などもあって植樹をしないことになった。

- ・以前は冬場の景観として、アイスクャンドルの設置などという話もあったが、やはり誰が管理するのかという点が問題になった。

(事務局)

- ・総論は植栽などの設えは良いということだが、維持管理面で課題があるという意見だと思う。
- ・次回の議題でもある「持続可能な推進体制の構築」面もセットで検討していくことが必要。
- ・定山溪全体を1つのカラーにまとめるのは難しいため、ゾーニングの考え方には賛成。また、エリア分けは案のとおりで良い。
- ・温泉街のゾーニングの中に「観光的中心点」があればよい。景勝地としての二見吊橋や、街並みの象徴としての岩戸観音堂のような歴史的要素などは象徴としてゾーンの印象を形成しやすい。
- ・エリア内で統一のとれた考え方で景観などを検討していくということもなるかと思う。
- ・4 ゾーンを中心としつつ、国道沿線は重点沿道エリアとして別途検討していくということで進めていく。

○基本方針（案）の深堀り（ねらい、方向性、主な取組）

◎基本方針1：定山溪の魅力を感じる街並みと景観の維持／形成

◎基本方針2：エリアの特性を活かしたコンテンツの充実

- ・ゾーニングの中で、その先にあるターゲット・消費者が異なってくるのではないかという印象がある。
- ・コンテンツの磨き上げもそうだが、プロモーションの仕方が異なっているのでそこをどうやって推進していくかが課題。
- ・現時点で、定山溪で「バズっている」ものは何か？ということを集計したデータなどはないのか？（インスタでポストされているコンテンツなど）今の状態でどうなっているのかを認識した上でコンテンツをどう広げていくのか、繋げていくのか、検討していくことが重要。
- ・今、バズっているのはパン屋や山の風マチエリア。
- ・現状、強みになっているところ、弱みになっているが売っていかねばならないところが、あいまいになっている状態。

(事務局)

- ・別紙で携帯電話の位置情報やウェブ検索データなどを基に分析した調査結果を整理している。
- ・札幌市では札幌DMOの立ち上げを検討しているが、その中で場所、年代などのアクセス情報などを分析していこうと考えている。
- ・ただ、現段階では見えていない部分も多い。どのような視点で検討すべきかという意見を伺いつつ、将来的には戦略的に検討を進めていくことが必要。
- ・ゾーニングを決めたとしても、どうやって具体的に戦略を進めていくかということが重要になってくる。
- ・今回のビジョンは、絵に描いた餅にならないよう、施策を並べるところに加えて誰がやるのか

というところまで検討していくのか？

(事務局)

- ・詳細にこういう体制で進めていくということまでは描き切れない。少なくともこういう方向で進めていかねばならない、ということを検討会議の中で合意できれば、それに向かって推進体制はこういう形を目指さなければならない、という方向性がみえてくる。
- ・エリア毎の行動指針（クレド）的な、元の考え方みたいなものがないと考え方が逸れていってしまうのでは？と思う。
- ・二次交通を含めた広域観光では、「South Sapporo Resort」を推したい。
- ・温泉、アクティビティやピリカコタン、足を延ばして石山、芸術の森、滝野まで含めると、歴史・文化・自然という3つのカテゴリを網羅している。南区エリアを1つのリゾート地域に見せることで、新たな滞在の目的が生まれる。
- ・定山溪のかわまちづくり計画が進んでいくなかで、見返り坂、月見橋、岩戸観音堂など定山溪中央線を中心とした温泉街の歴史を感じさせる湯のまちゾーン、自然豊かな二見公園、二見吊橋や二見定山の道などといった観光資源が豊富な二見・溪谷ゾーンは、かわまちづくり計画の中心となる場所であり、地元として非常に重要なゾーンである。今後も大きな検討課題である。

(事務局)

- ・立地的にも歴史的にも重要な場所。あらためて地元の課題認識を共有させてもらった。今後もより良いゾーン形成のため、検討を進めていく。

◎基本方針3：戦略的なプロモーションの展開

- ・プロモーションの一番の予算投下はFIT市場。
- ・アクセスの優先順位は、①札幌中心部、②小樽、③新千歳空港である。韓国以外のインバウンドシェアが弱い。FITマーケットは他観光地と比べ移動距離の優位性を活かせる。
- ・小樽とのアクセス拡充は、定山溪泊～小樽観光～札幌市街地泊の2泊ルートを提案可能。

◎基本方針4：交通アクセスの改善

- ・二次交通を含めた広域観光では、「South Sapporo Resort」を推したい。
- ・温泉、アクティビティやピリカコタン、足を延ばして石山、芸術の森、滝野まで含めると、歴史・文化・自然という3つのカテゴリを網羅している。南区エリアを1つのリゾート地域に見せることで、新たな滞在の目的が生まれる。
- ・宿泊税を原資として札幌DMOの設立を検討中と聞いている。
- ・札幌DMOは観光協会にぶら下がる形になるのか。

(事務局)

- ・札幌DMOの組成方法は検討しているところ。札幌全体の観光客の収集データを用いながら戦略的に施策を検討していくことを想定しており、定山溪エリアとDMOが役割分担をしながら進めていくような形になる。

- ・宿泊税の用途については、グリーンスローモビリティなどのような目に見えるような形で使われ方はあるのか？

(事務局)

- ・DMOだけでなく様々な施策を推進していくことを想定している。
- ・石狩と札幌を結ぶモノレールの構想は今もあると思うが、バスの減便や運転手不足の問題もあるため、定山溪までモノレールを整備するなど、色々な可能性を検討するようなことも必要ではないか。
- ・グリスロの想定路線図があるが、かっぱライナーでもある程度カバーできているが、別建てで必要なのか。
- ・かっぱライナーの利用客は、域内交通とは違ってくる。外出したが宿泊施設まで戻れないのでタクシーを呼んでほしいというお客さんが結構多いので、需要はあると思う。
- ・ホテル無料送迎バスの共同化やグリーンスローモビリティについては、今後市としても公共的な協力体制として検討する余地はあるのか。

(事務局)

- ・市としても検討を進めていきたい。
 - ・ホテル送迎バスの共同運行ということになれば、お客様からお金をいただく方がよいのではという意見もあったが、それで全て賄えるとは思えないため、その分の支援などが必要と考える。
 - ・ビジネスホテルでも宿泊税をとる場合、どのような目的のために徴取すると説明するのか。
- (事務局)
- ・来訪者の利便性向上、交通アクセスの強化や、災害への備えなどに使われるということになる。
 - ・民泊の宿泊者も課税対象となる。

- ・宿泊税の導入により、札幌市の定山溪観光のための予算はどのくらいになるのか。

(事務局)

- ・今後、どのように予算を使って事業展開していくのかという絵姿がないと、予算額は決まらない。現在、次期定山溪観光魅力アップ構想の検討を行っているので、このタイミングで事業を検討していくことになる。
- ・宿泊税は早ければ令和8年度から導入予定。

- ・施策について、どのように強弱、優先順位をつけていくのかという視点も重要になってくる。
- ・今後は、課題や事業主体なども含めてアクションプラン的な視点も含めて検討していくことになる。

以 上